資料３

令和２年度 第２回高齢者福祉部会　会議内容概要

と　き	令和２年１０月１９日（月）午後２時～３時３０分
ところ	近江八幡市総合福祉センター　１階ホール
出席者	塚本部会長、西川委員、寺町委員、濱田委員、深尾委員、辻井委員、中村（公）委員、大西委員、谷委員、中島委員、佐竹委員、森田委員、村井委員　　計１３名
欠席者	柳委員、森村委員、石黒委員、中村（君）委員
傍聴者	なし
事務局	長寿福祉課、介護保険課
議事事項	報　告：第８期総合介護計画の方向性・体系等について 審議１：第８期総合介護計画での取り組み内容等について（高齢者福祉部会関係分） 審議２：高齢者生活支援サービスについて
内　容	○開会あいさつ（塚本部会長） ○配布資料確認、議長選出 ○議事事項 【報告事項】第８期総合介護計画の方向性・体系等について（資料１・２） 事務局より、第７期計画期間中の実績・評価等を整理した課題整理表（資料１）及び第８期計画における方向性と計画の体系図（資料２）は、今年度の総合介護市民協議会で提示・承認されたもので、部会での審議内容の参考資料として添付したことを説明。 第１回目の部会後、委員から文書で５点の意見提出があったことを報告。（資料６）委員からの質問等は特になし。 【審議事項】 １）第８期総合介護計画での取り組み内容等について（資料３・７） 事務局より第８期総合介護計画のうち「第４章　施策の展開」の中の高齢者福祉部会に関係する取り組み内容について提示し説明を行った。 提示した内容を第８期計画に反映させることで、部会の承認を得た。 （主な意見等） ・サービスを利用して、自分ができるようになりたいという自立意識の高い方が出てくるとよいと思う。 ・生活支援を担うことが役割や生きがいにつながればよいと思う。 ・生活支援の担い手養成から結び付けていくことも重要で、自立支援ということで広げて取り組めるとよい。 ・事業の内容などもう少し具体的に書かないと計画を見た市民には分かりにくいのではないか。具体的に示すなど分かりやすく伝わるよう検討してほしい。

	・様々な団体が社会福祉で活動しているが、連携をとるような行政指導をしてほしい。一定の年齢になれば皆が老人クラブに入るような流れをつくってほしい。 ・地域の団体が結び付き地域全体の取り組みとなるような仕組みを築いていくことが大事であり、そこを意識して計画に記載するとよい。 ・「自らが自立意識をもち、ともに支え合う」ということを自治会単位で考えないといけない。地域で真剣に考えてくださいと訴えないといけない。自分でできることは自分でやってくださいと、強く言ってよいと思う。 ・地域も高齢化し担い手も厳しいので、いろんな機関が結びつき横に連携しながら取り組んでいけるよう、行政も地域も一体となり進めていくことが重要である。 ・コロナ禍のなか、閉じこもりの高齢者が増えないよう生きがいづくりなどの日々の取り組みを広げていくことが大事である。 ・まちづくり協議会も高齢者に対する福祉事業を展開する時期であり、意識を変えなければならない。行政と絶えず情報を共有し、仕組みを作ってほしい。 ・まずやれるところから、地区単位でのまちづくりを広げていくことも大事である。 ２）高齢者生活支援サービスについて（資料４・５） 　高齢者生活支援サービスにかかる今後の対応及び訪問理美容サービスの対象者要件の変更について提示し説明を行った。 　提示した内容について、部会の承認を得た。 （主な意見等） ・本当に必要な人にいかに活用していただくか、６５歳以上の高齢者が２割から３割あり、サービスの利用者がもっと広がってもよいと思う。分かりやすく継続的な周知とケアマネジャーとの結びつきが重要と感じる。 ・軽度生活支援サービスと総合事業の訪問Ａも利用に繋がっていないので、利用に結び付けられる人が本当にいないのか協議しないといけないと感じる。必要な人に必要なサービスの情報が届くことが大事で、時々の周知が重要と思う。 ・自ら自立した意識を持つということで、実際の申請とか受け取りなどはできるだけ自分でとか家族さんが動いてもらえるような形になればいいと思う。 以上